

—東総地区少年野球連盟大会規則—

—大会競技規則—

1. 最新年度「公認野球規則」「競技者必携」及び「大会特別規則」を適用する

—大会特別規則—

{出場資格及びチーム構成}

1. 東総地区少年野球連盟に登録している、成人者による代表者・監督・コーチ（2名）・スコアラー・介護員（2名以内）と選手9名以上20名以内とする。ベンチ入り指導者（監督・コーチ）は、認定指導者有資格者とする。
2. 部員数が1・2年生を除いて8名以下のチーム同士の場合は連合を認める。
※特例として選手数が1・2年生を除いて9名を超えていても選手数が8名以下のチームとの連合を認める。
但し、地域理事の承認をえることとする。

{服装・用具}

1. 同一チームの監督・コーチ・選手は、統一されたユニフォーム・帽子・ストッキング（アンダーソックス）を着用し、スパイクシューズは同色系とする。但し、連合チームは所属チームのものとする。（金属は禁止）
2. ヘルメットは「JSBB」公認マーク入りで両側にイヤラップの付いたものをベースコーチ、ボールボーイも使用する。バットは「JSBB」公認マーク入りの金属バットを使用し、破損（変形）・加工バットの使用は禁止する。
3. 捕手（控えも含む）は、マスク（スロートガード付及び一体化も可能）「SG」「JSBB」公認マーク入り・レガーツ・プロペクター・ヘルメット・ファールカップ（女子選手は除く）を着用する。
4. 投手の守備を除き、選手（打者・守備）の手袋およびリストバンドの使用は認める。
5. 使用球は全日本軟式野球連盟公認球「J号球」とする。
6. ベンチ内では、組立椅子・机等の持ち込み、使用を禁止する。

{試合開始前}

1. 全試合開始時刻30分前に監督・主将がメンバー表（4部）、指導者認定証、野球規則、競技者必携、検温確認表を提出する。その際にジャンケンにて先行・後攻を決める。
2. ベンチは、抽選番号の若番が1塁側、後番が3塁側とする。
3. 試合前のメンバー交換後、次試合の両チームの先発バッテリーのブルペンでの投球を認める。
4. シートノックはベンチ入り10分後（時間の短縮を目指すため）に、後攻チームから開始し時間は5分間とする。但し、前の試合の遅れまたは天候不安定等が生じた場合は、短縮または中止をして試合を開始する。球場内にはユニフォーム着用指導者のみとし、ノッカーへのボール渡しをする選手は、ヘルメットを着帽のうえ、前方からの手渡しとする。
5. 球場内に試合前においてバットの使用を禁止する。但しベンチ前のみ指導者による守備ノックと指導者立会いのものの素振りは認める。

{試合}

1. 大会の試合形式はトーナメント戦とし、1試合（1時間30分）6回均等回で勝敗を争うこととするが、タイムゲームを優先する。1時間30分を超えたときは新しいイニングに入らずにその時点の得点を持って勝敗を決する。同点の場合は特別延長戦ルールを適用する。決勝戦も同様とする。
2. 得点差によるコールドゲームは、3回均等回終了後10点差または4回均等回終了後以降7点差とする。
3. 日没・降雨によるコールドゲームの適用は、4回均等回終了後に適用する（同点の場合は抽選とする）

4 回均等回終了前については、再試合とする。

日没・降雨の判断は、当該球場責任者・責任審判員が両チームの監督を招集し協議して決定する。

4. 上記 2・3 項における「4 回均等回終了」については、4 回表が終了した時点で後攻チームがリードの場合 4 回均等回終了とみなしコールドゲームを適用する。
5. 同一投手の投球回数は 1 試合 4 イニング 1 2 アウト（特別延長も含めて）とする。1 日 2 試合ある場合は 2 試合目については 3 イニング（9 アウト）とする。（1 日合計 7 イニング 2 1 アウト）。
※高学年大会においては、投手は 5・6 年生とする。特例として 4 年生以下も認めるが、出来る限り 5・6 年生を起用すること。（4 年生以下の投手の投球回数は 1 試合 3 イニング 9 アウトとする）。
6. 投手の変化球は禁止し、変化球に対してはボールを宣告する。再度繰り返した場合は、その投手は交代させる。（その試合での再登板も認めない）
7. 打者走者及び走者は、走塁の時ベースコーチまたは選手に触れてはならない。その場合走塁補助と見なしアウトを申告する。
8. 死球等により手当が必要とする場合には、臨時代走（コーティシーランナー）を認める。代走は打順前位の者（投手・捕手を除いても良い）とする。
9. 審判員に対するアピールは監督と当該選手に限り認める。また選手交代を行うときは監督が球審に申告する。試合中のメガホンの使用は監督に限り認める。
10. 1 試合のタイム数の制限は、攻撃 3 回・守備 3 回・特別延長戦は 1 イニング各 1 回とする。
監督が投手と協議するときは、マウンドまで駆け足を励行すること。但し、同一イニングに同様の行為を 2 回行った場合は投手を交代させる。また、守備時にマウンドに 3 人以上集まればタイム 1 回と見なす。
11. アウトを取る意思のない投手の塁への牽制・送球は遅延行為と見なし審判員はボークを宣告する。
12. 申告故意四球を採用する。
13. 相手チームに対して悪質な抗議・野次等を行うチームに対しては、当事者または代表・監督の退場を大会責任者・球場責任者・当該審判が退場を命じることが出来る。少年野球にふさわしい応援をする。
14. 各チーム試合終了後はグラウンド整備とベンチ内・応援席の清掃と消毒を行うこととする。

{特別延長戦}

1. 6 回終了後または 1 時間 30 分を超え後攻の攻撃終了時で同点の場合は、特別規則を適用し、直ちに「特別延長戦」を実施すること。
2. 打者は前回の継続打者、走者は前回の最終打者が 1 塁として 2 塁・3 塁の走者は順次打者として 1 死満塁で最大 2 イニング行いなおも勝者が決定しない場合は抽選とする。（決勝戦も同様）
3. 特別延長戦中の降雨・日没については全て抽選とする。（決勝戦も同様）
抽選方法は、球場責任者・責任審判員の指示に従う。
4. 特別延長戦での選手の交代は認める。但しすでに交代した選手の交代は認めない。

{審判規定}

1. 準決勝・決勝の審判は審判部が行います。その他の試合は各チーム 2 名の帯同審判をお願いします。
2. 審判員の飲み物に関しては各自用意する。
3. この規定以外の必要事項は、審判員が球場責任審判員と協議して決定する。